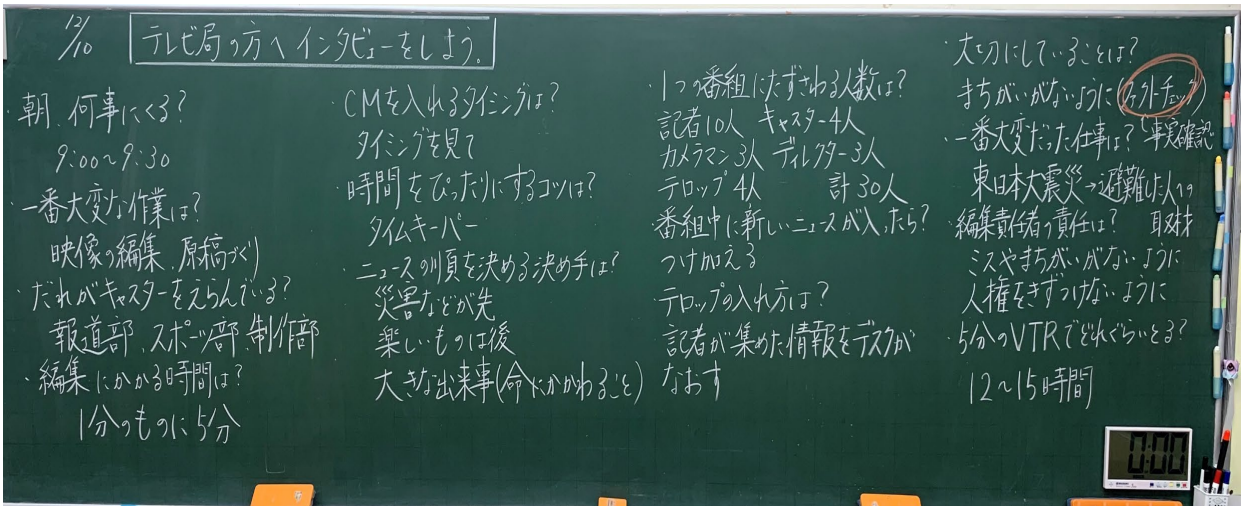
研究テーマ　情報機器の活用を通して、主体的に学習させる指導の工夫
第５学年　「情報を伝える人々」

【提案】

日々の学習を行う中で、教科書や資料集、教師が提示した資料だけだと、児童の真に解決したい課題を調べる活動になり得ないのではないかと感じていた。そこで、情報機器を活用して映像資料を使ったり、当事者へのインタビュー活動を行ったりすれば、単元を貫く学習問題や１単位時間の解決すべき課題、自らの疑問を解決する機会となり、児童はより主体的に学習に取り組むのではないか。この仮説のもと、タブレット端末による映像資料の活用や、インターネット回線を使ったインタビュー活動を行うことで、児童が社会をより深くわかり、社会により関わろうとすることを目指した。



【自分たちの課題の解決へ向けたインタビュー活動】

１　実践のポイント

(1)　映像資料を使った調べ学習

本小単元では、マスメディアで情報を伝える人々の工夫や努力について学習をするが、教科書や資料集では、制作者が多くいることやどのような仕事しているのかが捉えにくい。そこで、「NHK for school」などの映像資料を、タブレット端末を使って見ることで、全体で見ているときにはできない自分が興味のあるところで止めたり、繰り返し見たりすることができるようにする。そうすることで、全体で映像を見るときにはできない、一人一人に合った調べ学習ができると考えた。

(2)　インターネット回線を使ったインタビュー活動

タブレット端末を使い、インターネット上で会話をするソフトを活用すれば、直接現地に行かなくてもインタビュー活動が行える。この方法を取ることで、児童の移動のための時間を取ることなく、児童が教室にいる状態でインタビュー活動を行うことができ、一人一人の疑問に時間をかけて解決することができるのではないかと考えた。

２　実践の位置付け

(1)　小学校学習指導要領との関連

内容(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア(ｱ)　放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。 (ｳ)　聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。 イ(ｱ)　情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

マスメディアとは、「不特定多数に大量の情報を送る媒体」である。マスメディアは、その特性ゆえに、制作者側が「多くの国民が求めているであろう情報」を勘案し、自らが得た情報を選択・加工して発信している。そして、放送局は番組を作るにあたり、多くの人がかかわり分業することで、正しい情報を速く、分かりやすく伝えるための様々な工夫や努力をしている。

また、放送局が常に正確な情報を流していればよいが、もし誤った情報を流してしまったときには、瞬時に国民全体に知れ渡り、一部（または全部）の国民に影響を与える可能性もある。そのため、全ての情報が正しいわけではないということを意識する必要がある。また、自分が欲しい情報を得るためには一つの媒体だけでなく、複数の媒体から情報を得て比較・検討することが大切であると考える。

(2)　実践のポイントの学習評価との関連

・努力を要する状況(C)の児童に対する指導、支援

第４時のテレビ局の方へのインタビューについては、前時までに調べた情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、疑問を出し、質問を考えられる姿を目指した。しかし、工夫や努力に着目をした質問を考えられない児童については、ノートへのコメントを通して、「情報を集め発信するまでの工夫や努力など」に着目するよう支援し、今後の学習において社会的事象に対する見方・考え方を働かせられるようにした。

・評価のための授業にならないための、指導に生かす場面と評価を記録に残す場面の設定

第４時においては、テレビ局の方へのインタビュー活動と学習問題の結論をまとめる時間とした。１単位時間の中で、大きな学習活動が２つになるため、前者の「テレビ局の方へのインタビュー」については指導に生かす場面とし、後者の「学習問題の結論をまとめる」については評価を記録に残す場面とすることで、効率的な指導と支援を目指した。

３　実践の内容

(1)　小単元の目標と評価規準

我が国のテレビ産業と情報との関わりについて、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめ、テレビ放送などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、テレビ放送などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料などで調べて必要な情報を読み取り、放送の産業の様子を理解している。 ②調べたことを文にまとめ、放送産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。	①情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、問いを見いだし、放送産業の様子について考え表現している。 ②発信された情報と国民生活を関連付けてそれらの産業が国民生活に果たす役割を考え表現している。	①我が国の産業と情報との関わりについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

(2)　指導計画と評価計画（６時間）

※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

〇内の数字は時間を表す。　　**知**：知識・技能　　**思**：思考・判断・表現

＜　＞内は評価の方法を表す。　　**態**：主体的に学習に取り組む態度

	学習活動・学習内容	評価の観点・内容・方法	資料
つかむ	①　普段活用されているそれぞれのメディアついて調べ、各メディアの特ちょうについて理解する。	**知①**　普段自分たちの生活の中で活用されている様々なメディアの特ちょうについて理解している。〈発言、ノート〉	
	②　テレビ局の取材について調べ、学習問題を立てる。	**思①**　画像と映像との違いから、疑問を出し、学習問題を立てようとしている。〈発言、ノート〉	・小学校を取材している人々 ・実際に流されたテレビ映像
	学習問題 テレビ番組はだれがどのようにつくっているのだろう。		

調べる	③　ニュース番組ができるまでの過程を調べ、携わる人々の工夫や努力について理解する。 ・ テレビ番組制作の過程 ・ 編集責任者の仕事内容 ・ 制作者の工夫 **実践のポイント（1）**	**知①**　映像資料や教科書、資料集を使って、ニュース番組ができるまでの過程を調べ、ノートにまとめることができる。〈発言、ノート〉	・「何を選んで伝える？テレビニュース」（メディアタイムズ　NHK）
	④テレビ放送に携わる人々にインタビューをして、どのように情報を得ているのかについて理解する。 ・ 情報の集め方 ・ 取材の仕方 ・ 情報の送り手としての責任 **実践のポイント（2）**	**思①**　情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、疑問をだし、質問を考えようとしている。〈発言、ノート〉	・テレビ局の方へのインタビュー
まとめる	⑤学習問題の結論を考える。	**思②**　主体的に学習問題の結論を考え、表すことができる。〈発言、ノート〉	
	学習問題の結論 テレビ番組はディレクターや編集責任者など制作にかかわる人が、速く正確に分かりやすく国民に必要だと思う情報を選択・加工して制作している。		
生かす	⑥放送された映像について調べ、放送には制作者の意図があることについて考える。	**態②**　放送には制作者の意図があることに気付き、情報の受け手として正しく判断しようとする思いを表すことができる。〈発言、ノート〉	

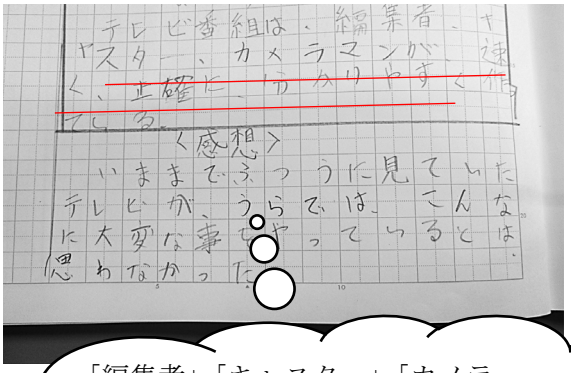
4　実践結果と考察

(1)　映像資料を使った調べ学習

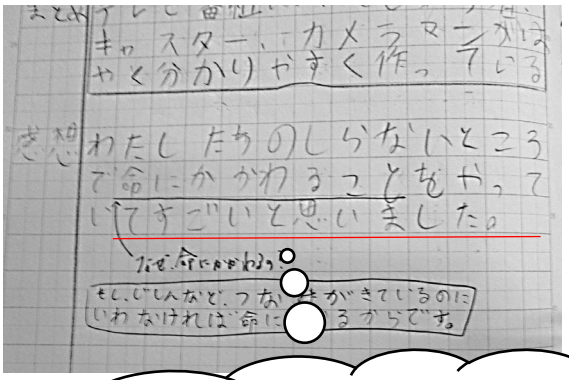
今回は、NHK の「メディアタイムズ」という番組の「何を選んで伝える？テレビニュース」という回を選択して、児童に提示した。この回を選択した理由は、編集責任者が番組で流すニュースの順番を選んでいる光景が多く描かれているからである。教科書や資料集では、多く出てこない編集責任者の仕事の様子を取り上げることで、制作者が情報を選択して放送していることを意識させたかった。また、教科書では、「国民がもとめている情報」を選んでいると書かれているが、実際には編集責任者が国民に知ってほしい(考えてほしい)情報を選んで送っていることも、理解することを目指した。

実際の学習では、多くの児童が自分の知りたい情報の場面で、映像を停止してノートにまとめていた。さらに、一度その番組を見終えた児童は、他の番組(「未来広告ジャパン！」の「ニュース番組は

どう作られるか」が多かった)も見て、さらに多くの情報を得ていた。結果的に、それぞれの制作過程の中で、「だれ」が「どのように」作っているのかが、教科書や資料集よりも深く理解することができたと考える。一方で、「メディアタイムズ」では、情報を速く伝えるための工夫や努力については取り扱っていなかったため、その後の発表の中で「速く」という言葉が出にくかった。「未来広告ジャパン！」との併用も、「速く」「正確に」「分かりやすく」という工夫を理解させる上では、必要かもしれないと考えた。



「編集者」「キャスター」「カメラマン」など様々な立場の人がかかわっていることを記述している。

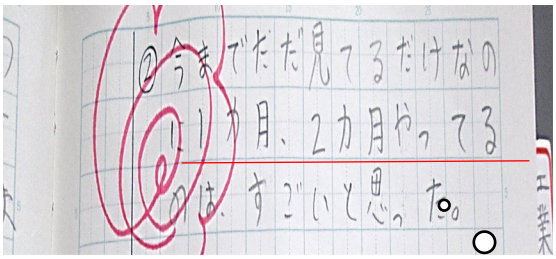


テレビ番組の情報が、国民生活にかかわっていることに気付き、記述している。

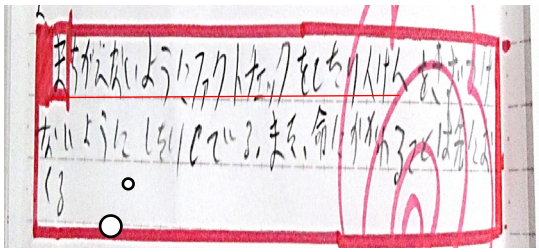
⑵　インターネット回線を使ったインタビュー

第３時では、テレビ局の方にインターネット回線を使ってインタビュー活動を行った。離れた場所の人にも、時間や費用を節約して、インタビューができれば、より様々な方へのインタビュー活動も行えるのではないか考えた。また、児童も、テレビ上ではあるが、実際に働く人の顔を見て、インタビューをすることで親近感や実社会とのつながりを感じるのではないかと考えた。

実際の学習では、質問は多岐に渡った。「朝は何時に来るのか？」というような素朴な疑問から、「ニュースの順を選ぶ決め手は？」といった核心部分も含めて、多くの児童が自分の疑問をぶつけることができた。中でも、「番組をつくるためにかかる時間はどれぐらいか？」という質問に対して、「長いものでは２～３か月かけて」という返答に多くの児童が驚いていた。制作者の方も、「ドキュメンタリーのような番組では・・・」という前置きがあったのだが、児童には長い時間をかけて制作しているという思いが残ったようである。また、制作者の方はインタビューの中で、「ファクトチェック」という言葉を多く使っていた。「正確に」というキーワードを理解させるためには、非常に重要な言葉ではあるが、上記の「２～３か月かけて番組を作る」という言葉と重ね合わせた児童が多く、まとめのときには、「長い時間をかけて丁寧に作っている」という言葉も目立ってしまった。

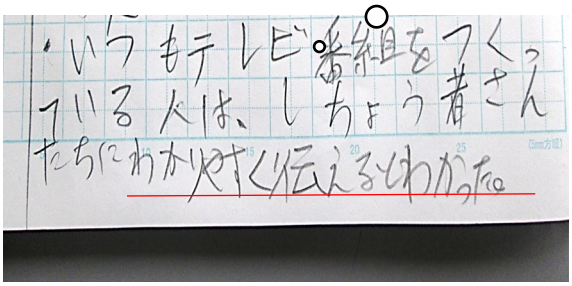


長い時間をかけて

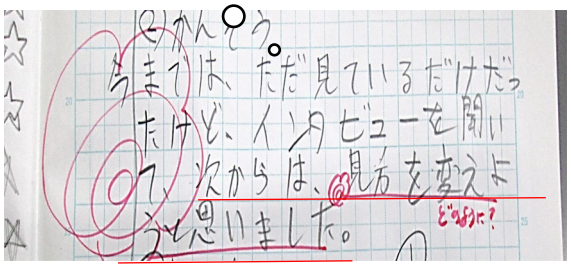


正確に

インタビューを基に、社会的事象に対しての認識を深め、新たな見方をしようと記述している。



視聴者に分かりやすく



自分のこれからについて記述

5　研究の成果と今後の課題

＜成果＞

・映像資料を使うことで、教科書や資料集では見ることのできない細部まで見ることができ、テレビ番組を制作するための工夫や努力についてより深く理解することができた児童が多くいたと考える。

・実社会で活躍している人へのインタビュー活動は、児童一人一人の疑問を解決するよい機会となった。教科書や資料集だけでは調べられない疑問を解決することができたことは、児童の深い理解につながったのではないかと考える。

＜課題＞

・情報機器の扱いに慣れていない児童への支援が煩雑になってしまう。操作の手順を、児童に分かりやすく提示する必要がある。

・静止画の資料に比べて情報が多い分、大切な情報を見落としてしまう児童もいる。そこで、映像資料を児童に見させるときには、何に気を付けて見なければならないかという視点を与える必要がある。

・遠隔地の方へのインタビューを行えることで、実社会で活躍している人々との距離を縮めることができたのではないかと考える。しかし、拘束時間も長く、通信料等の問題も考える必要がある。また、今回のようなインタビューを行うことのできる人材の確保やネットワークの確立も必要であると感じた。